

## 大腸穿孔に対する敗血症バンドルケアの有用性の検討

### 1. 研究の対象

2015年4月～2019年8月に当院で汎発性腹膜炎を呈した大腸穿孔で手術を受けた方

### 2. 研究目的・方法

#### 【背景と目的】

大腸穿孔は敗血症ならびに敗血症性ショックを呈する重篤な疾患です。敗血症は2016年に「敗血症および敗血症性ショックの国際コンセンサス定期第3版」という新しい定義づけがなされ、早期診断、治療とバンドルケアの重要性が強調されています。大腸穿孔に対する当科での取り組みとして、2018年より救命救急外来における早期血液培養採取、広域抗菌薬投与、乳酸測定ならびに術後のバンドルケアを導入しました。その有用性について後ろ向きに検討します。

#### 【方法】

患者背景、手術関連因子、術後合併症に加え、術前血液培養採取率、広域抗菌薬投与の有無、乳酸測定の有無、バンドルケアの有無について検討し、早期治療介入や術後バンドルケアが転帰に影響を与えるかについて評価します。

#### 【統計手法】

統計ソフトはJMP10を使用する。連続変数に関してはWilcoxon検定、カテゴリ変数に関してはカイ二乗検定を行う。

#### 【研究実施期間】

2019年9月2日～2020年4月

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

熊本県熊本市南区近見 5-3-1 済生会熊本病院

096-351-8000 (病院代表)

研究責任者：外科 小川克大

以上